

〔要旨〕

中国語“是……的”構文の習得について  
一文法項目の導入におけるコミュニケーション活動の試みー

賀 南                      馬 叢慧  
(山梨県立大学)          (下関市立大学)

“是……的”構文は、日本人の中国語学習者にとって習得しにくい文法項目の一つである。今までの先行研究では、“是……的”構文の意味、機能や用法に関してさまざまな角度から分析されてきたが、習得状況や教授法については、まだまだ議論が少ないのが現状である。

本発表は、まず日本で出版された 38 冊の中国語の教科書を調査し、“是……的”構文を導入する文脈、文法項目を説明するパターン、「了”・“过”・“様態補語”・“是……的”」の出現順などを取り上げ、“是……的”構文における習得の問題点を分析する。

また、“是……的”構文は入門・初級の段階においても、場面依存度の高い文法項目と言える。その習得過程で、意味の理解と語順の把握がある程度できたとしても、実際のコミュニケーション場面で適切に使えない傾向がある。そこで、“了”とリンクした“是……的”構文のコミュニケーション活動を提案することで、より有効な教授法、場面ドリルが活用できる教材開発を目指したい。